

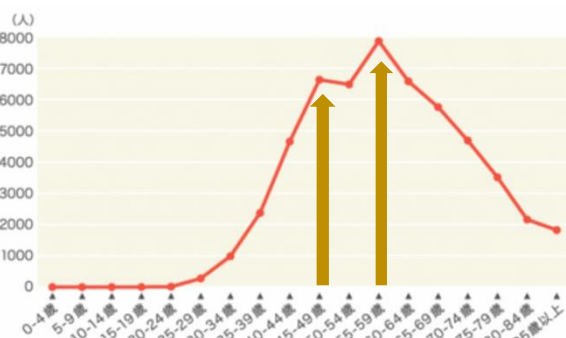
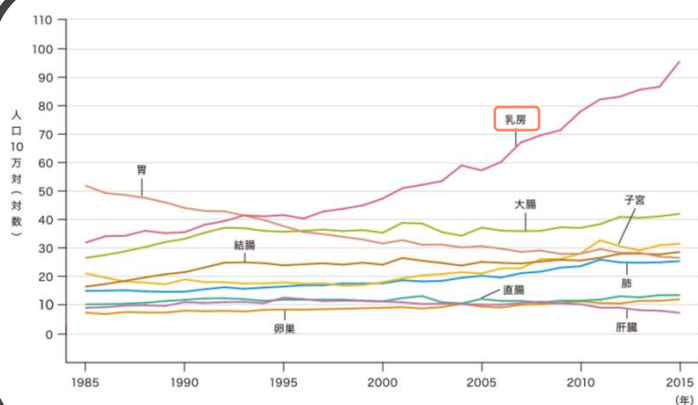
乳がん

乳がんは様々な部位のがんの中で経年的な罹患者数の増加が特に大きく、現在は**女性がかかるとして最も多いがん**となっています。増加している理由として、食生活やライフスタイルの変化が指摘されています。

発症しやすい年齢では**30代から増加し始め、40代と50～60代の2回に罹患率のピーク**があることが特徴です。

早期の乳がんは**自覚症状がないことが多い**ですが、**しこり、乳房のひきつれ、乳首から血性の液が出る、乳首の湿疹やただれ**など気になる症状がある場合は**必ず乳腺外来のある医療機関を受診**してください。

<乳がんの罹患率について>



出典：国立がん研究センター がん対策情報センター

<乳がんの検診（マンモグラフィ）について>

40歳以降は2年に1回、マンモグラフィを繰り返し受けることが勧められます。マンモグラフィは乳房に対するレントゲン検査で、小さいしこりや石灰化を見つけることができ、**乳がんの早期発見に有効**です。乳がんの中には急速に進行するがんもあり、**必ず2年に1回、繰り返し検診を受**けてください。

ただし、マンモグラフィでは見つけにくい乳がんもあるため、上記の症状がある場合には検診を待たずに受診するようにしてください。

乳がん検診で「要精密検査」の判定の場合は**必ず精密検査**（①疑わしい部位を多方面からマンモグラフィ、②乳房の超音波検査、③細胞や組織を採取）**を受ける**ようにしてください。

